



よしだつうしん

# 吉田通信

第80号  
【2021年5月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通信は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一個人通信です■■

## ◆白根大凧合戦と伝統技術◆

こんにちは。お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通信第80号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、この吉田通信でもこれまで何度かご紹介させていただいております毎年6月の頭に新潟市南区で開催される「白根大凧合戦」。例年、私たちも社会貢献で、会社（本社）として大凧ではなく「巻凧の部」（当地では六角の凧を巻いて持ち運ぶので「巻凧（まきだこ）」と呼びます）に参加させていただいております。

江戸時代の中頃から300年続くこのお祭りが、昨年はコロナの影響で中止に。今年は例年、木金土日月の5日間のところ、水木金の平日3日間に会期を短縮し、国や県の新型コロナウイルスの感染防止対策を参考に開催される方針になっています。

やはり、2年連続で中止にしてしまうと、それこそ凧を上げる参加者が激減し、お祭りの存続が危ぶまれるので、とにかく開催し、伝統を守ろうと。そして、私たちもオリンピックではありませんが、「参加することに意義がある」の精神で、会社として参加することを決定しています。

ところで、伝統を守るという意味では、仏壇作りの伝統技術の継承も、とても大事なことです。私たちは、お仏壇を作り続けて97年。もうすぐ100年です。その伝統技術の継承は、昔のような修行や丁稚というものが今はありませんので、会社として若い人を採用し、時間を掛けて粘り強く教えていくしか方法はありません。今日明日に簡単にできるようになるのではなく、だからこそ価値がある技術なのだと思いますが、若者がどんどん減っていく日本で、伝統技術を守っていくことは、容易なことではありません。



そういった中、実はこの春、地元の高校を卒業した子が2人、新入社員として製造部門に入社してくれました。彼らは今、その伝統技術を一から学んでいくところです。白根大凧合戦にしても、仏壇作りの技術にしても、その伝統をなんとか途絶えさせないように、今できることをしっかりやっていきたいと思っています。

## ◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。さて、白根大凧合戦に使用する巻凧、それを作っている当社の倉庫が先日の強風で屋根がめくれ上がり、一部、倒壊してしまいました。その倉庫は建て直すことにし、また、日が迫っている凧作りは、別の倉庫の一部を改装し、それ専用の場所を作りました。参加することに意義があると書きましたが、この力の入れようです。開催当日に向け、気合いはだいぶ入っております。吉田竹史

■吉田通信を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが090-3339-0424までご連絡をお願いいたします。■

### 【発行者プロフィール】

名前：吉田 竹史（よしだ たけし）  
生年月日：昭和40年8月21日（O型）  
出身地：新潟県白根市（現・新潟市南区）  
経歴：都内の学校を卒業後、証券会社（水戸 & ニューヨーク）の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味：上手くないゴルフ、強くない将棋  
（NHKの将棋対局を見ることは好きです）  
家族構成：妻、娘、息子



吉田 竹史